

私ども新潟港湾空港技術調査事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾及び海岸の整備と振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

## 13 気候変動に具体的な対策を 近年の気象状況を考慮した設計

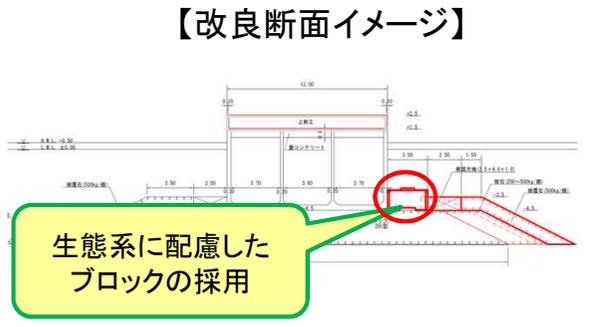
近年、台風による被害が頻発化・激甚化している状況であり、例えば2019年の台風第15号・第19号では、横浜港や東日本において、高潮・高波による護岸の損壊や背後地の浸水といった甚大な被害が発生しました。そのため、最新の波浪観測データや波浪推算手法を用いて、各港の推算沖波の見直しを行い、施設の設計に反映します。  
【目標】 2022年度:5施設 → 2030年度:8施設



① 土砂堆積+パラペット倒壊

## 15 陸の豊かさも守ろう 生態系に配慮した設計

伏木富山港(新湊地区)波除堤は、度重なる偶発波浪を受け、堤頭函の滑動などの被災が発生しており、港内側の補強が必要となったことから、その補強材料として、海の生態系に配慮したブロックを用いた防波堤の改良設計を実施しました。これにより、藻場礁や増殖礁として期待でき、更には多様な生物の生息が見込まれます。また今後は管内の他施設にも適用を検討しています。  
【目標】 2022年度:1施設 → 2030年度:4施設



生態系に配慮したブロックの採用

## 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 実験場見学会の実施

新潟港湾空港技術調査事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、「水理実験場」の役割、仕組みなどについて、地域の皆様に幅広く理解していただくため、実験場の見学会を実施しています。国内最大級の水理実験場で模型を設置できる平面水槽では、異なる三種類の波を目の前で見学することが可能です。  
【目標】 2022年度:300人/年来場 → 2030年度:1,000人/年来場

